



消防学校 ニュース



令和5年1月号

火災調査科(第47期)

令和4年12月12日(月)から12月23日(金)まで、消防学校において火災調査科を実施し、県内16消防本部(局)から48人の消防職員と静岡県警察本部から12人の警察職員の合計60人が入校しました。

この火災調査科は、平成25年度から警察職員を受け入れ、学校内の寮で共同生活し教育訓練を実施しています。消防は「調査」、警察は「捜査」と目的は違いますが、火災原因の究明に消防・警察の立場は関係なく、ともに安心安全な街づくりを目指すことに変わりはありません。

学生は損害調査からはじまり、車両構造、車両火災見分要領、原因調査関係法規、原因調査要領、火災調査と裁判、放火犯罪と鑑識、製品火災鑑識要領、電気火災などの教育を受け、最後に常葉大学造形学部の学生が建築した模擬家屋による実践的な火災原因調査を行う模擬火災演習を実施しました。

～火災調査で人を救うことができる～ (講師の格言)



入校式



訓練礼式(形は心により生じ、心は形により長ず)



車両火災見分要領(廃車を燃焼し見分)



火災調査と裁判(弁護士の講義)



製品火災鑑識要領(リチウムイオン電池の分解)



電気火災(電気実験版で電気の仕組みを理解)



電気火災(トラッキングを再現)



製品模擬鑑識演習(電化製品を分解し構造を理解)



模擬火災演習(巻取り黒板で情報共有)



模擬火災演習(残渣物を除去し定着物を発掘)



模擬火災演習(収去物の鑑識)



火災調査書類作成(当専科の集大成)



模擬家屋燃焼の様子



模擬家屋燃焼の見学会（燃焼過程の説明）



模擬家屋建築の様子（常葉大学生の協力）



（担当教官から）

「火災調査」は、火災がどのようなものであったか、いかにして発生して拡大し、どの程度の損害を発生させたのかを明らかにするものです。そして、調査結果から類似した火災の防止や損害の防止に役立てられます。

学生たちは、国民の生命・身体・財産を守ることを念頭におき、火災の知識と火災原因究明の調査技術の習得に励み、学びの中で消防行政における「火災調査」は重要な任務であることを認識したと思います。

また、共同生活することで消防職員と警察職員の信頼関係が築け、今後の現場活動に生きると確信しています。

最後に、火災調査科（第47期）を修了した学生が、「火災調査」のスペシャリストとして活躍されることを期待しております。併せて、教育訓練を支援して下さった教育支援隊、講師の方々にお礼申し上げます。

教務課主査 飯塚 誠（静岡市消防局から派遣）

女性消防吏員講習（第5回）

～自分らしく輝いて～

令和4年12月5日（月）から12月7日（水）まで女性消防吏員講習を実施し、県内8消防本部（局）から10人が参加しました。この講習は、女性消防吏員としてのキャリア形成について考えるとともに、職域の拡大に必要な知識及び技術を習得することを目的としています。2泊3日の日程で、女性活躍推進に係る座学や火災防ぎょ訓練を中心とした実科訓練を行いました。



（担当教官から）

本講習は、教育期間の中で座学やホットトレーニングなどの様々な教育を実施しておりますが、「時間があればもっとやりたい」という姿勢が光る意欲あふれる3日間となりました。所属によって女性消防吏員の職務環境は異なると思いますが、教育期間中に得た知識や技術のほか、同期の絆を大切にして各自の目標に向かって歩み続けてください。

教務課主査 谷澤 俊光（県職員）

消防団員幹部教育指揮幹部科分団指揮課程（第8期）

令和4年12月11日（日）に指揮幹部科分団指揮課程を実施し、県内の消防団から61人が参加しました。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、宿泊を伴う土日の教育訓練から、1日訓練とWEB講義の視聴によるハイブリッド方式としました。参加者は、座学やシミュレーション訓練を通じて、消防団の管理運営や常備消防との連携等、幹部に求められる事項について教育を受けました。

また、今年度は「消防団最先着隊活動要領」というテーマで火災動画を視聴しながら、最先着時の状況評価、リスク管理及び火災戦術指揮についてグループディスカッションを実施しました。



シミュレーション訓練



グループディスカッション

（担当教官から）

教育の実施方法の大きな変更にも柔軟に対応し、積極的にWEB講義を視聴され、学校でのシミュレーション訓練等に真摯に臨む姿を見て、消防団幹部の責任感、使命感を感じました。

また、火災動画を視聴しての状況評価等、大変難しい内容のものでしたが、各グループで有意義な意見交換ができており、たくさんの「気づき」を得たと感じます。本教育で得た知識を各消防団に持ち帰っていただき、引き続き消防団の地域防災力の強化に努めていただきたいと思います。

教務課主査 早川 淳（磐田市消防本部から派遣）

消防団員幹部教育 初級幹部科(第14期)

令和4年12月18日(日)に初級幹部科を実施し、県内の消防団から47人が参加しました。訓練は指揮幹部科分団指揮課程と同様の“ハイブリット方式”で行いました。今回、参加者からの評価が最も高かった火災想定訓練では、注水要領に基づいた放水を街区訓練施設(模擬家屋)で複数班に分かれて行いました。また、パッキング・搬送法や車両操作等の訓練に真剣に臨む姿がありました。



現場指揮(オートバイク操作)



現場指揮(ドローン操作)

(担当教官から)

昨年度から続く1日訓練とWEB講義の視聴によるハイブリッド方式は、訓練に参加する団員の負担軽減を図る目的もあり、訓練後のアンケートでは賛同の意見が多く寄せられました。

普段の訓練で、火災想定訓練のような実践的なものは難しいと思いますが、今回学んだ常備消防との連携に不可欠な情報収集・情報伝達のポイントや、状況に応じた注水方法を各所属でフィードバックし身につけていただきたいと思います。

教務課主任 高橋 謙一(県職員)

原子力規制庁火災防護訓練



ドールハウス燃焼実験



空気呼吸器装着訓練



ホットトレーニング



ポンプ車の構造説明

令和4年12月8日(木)と9日(金)に、原子力規制庁(火災対策室)主催の研修が本校で実施され、環境技官等16人が参加しました。この研修は、参加者が火災防ぎの知識・技術を習得する目的で実施され、本校は訓練場所の提供や講師として協力しました。

1日目に、ドールハウス燃焼実験や安全管理等の座学を行い、2日目は、空気呼吸器装着訓練や実火災体験型訓練を実施し、火災性状に関する理解を深めました。

教官紹介〔飯塚教官・仲村教官・永田教官〕



飯塚
教官



仲村教官



永田教官

今年度は、3人の新任教官が各消防本部から派遣されました。飯塚教官は静岡市消防局から、仲村教官は下田地区消防組合下田消防本部から、永田教官は菊川市消防本部から、3年任期で派遣されています。

～高倉校長と教官との面談から～

校) 新任教官としての1年間で、学んだ点は何ですか。

飯) 「我以外皆我師」を人生訓としています。全ての人から学ぶ姿勢でいますが、今年度は特に先輩教官達の指導方法・タイミングや学生との距離感などを新任教官として学びました。

仲) 今までの職場では、先輩から指導された事をそのまま後輩へ伝えていただけでしたが、教官となって、理論だって伝えるようにしないといけないと強く感じました。そのため、伝える言葉の一つ一つに責任感を持つようになりました。先輩教官は、学生への説明が上手なので勉強になっています。

永) 学生からは教官として一挙一動が見られていることを強く感じ、常に背筋が伸び緊張感を持って過ごしてきました。消防吏員としてだけでなく社会人としても責任ある姿を示すことの大切さを改めて学びました。

校) この1年で自分自身が成長したと感じた点は何ですか。

飯) 教官として学びの途中ですが、事務処理の段取りやスピードが速くなってきて成長したなど感じます。最初の頃は目の前にあることを処理するだけで精一杯でしたが、最近は効率よく考えて処理することができるようになってきました。

仲) 先輩教官から教え方を吸収していましたので、学生に対する話し方、伝え方が上手になりました。

永) 自分の当たり前は人の当たり前でない。この1年、置かれる立場や環境に人間力というところで成長させていただきました。

校) 現在の楽しみは何ですか。

飯) 趣味はゴルフとキャンプです。毎年、家族でキャンプに行っていましたが去年は行けませんでした。今年はキャンプに行くことを楽しみにしています。

仲) 海が近いので、中学生の時からサーフィンを楽しんでいます。

永) 週末は子どものスポ少に付き添い成長を見守るのが日課であり楽しみです。また、家族でキャンプに行きますが、今年はソロキャンプをしようと思っています。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

